

中国地域ニュービジネス特別賞

表彰事業

ディーゼル・エンジン用超小型・低コスト尿素センサーの開発・製造・販売

株式会社 サンエー

代表取締役社長 ごあみたくま
五阿弥琢磨



受賞理由

大手金属会社が本事業から撤退。事業に参画していた同社が営業・開発企画権限の譲渡、特許は独占的实施権の供与を受けて事業を実施。ディーゼル車のNOx浄化技術の1つに尿素SCRシステムがあり、本システムでは尿素水識別センサー（以下、尿素センサー）で適正な濃度、異液、タンクの空などを監視する。現在は日本のみで使用されているが、2010年代半ばから欧米での規制が始まると予測されている。今後、世界的な競争激化が予想されるが、使用実績を武器に世界市場に売り込みをかけている。同社の開発は先行しており、平成16年の初代発売から、現在は第4世代のサンプル配布まで進んでいる。トラックのみならず小型乗用ディーゼル車にも採用可能とするため、回路のカスタムIC化、一体型成型技術の開発で小型化と低コスト化を実現し、世界の企業から関心を寄せられている。また、技術応用により燃料識別センサーも開発している。

（ポイント）・ディーゼル車の尿素センサー技術で先行。市場拡大が期待できる。

- ・尿素センサーは規制ビジネス。2010年代半ばから欧米での規制が始まると予測。
- ・平成16年から国内のトラック会社2社に供給。使用実績があるのは日本のみで、今後の市場開拓上も使用実績があることが強み。
- ・海外コンペティターと比べ、コスト面で優位。
- ・第4世代を今年3月からサンプル配布。多数社から引き合い、成約近いものが数社。
- ・回路のカスタムIC化、一体型成型技術の開発で小型化と低コスト化を実現。
- ・同社はTier3として尿素センサーをTier2のモジュール、タンク会社に供給。
- ・第4世代は第1世代に比べ、重量1/50、寸法1/13、価格1/20

事業概要

昭和44年に設立。大手電機会社の製造受託を主たる事業として電子部品デバイス製造で発展。その後、下請型から受託製造（EMS）へと事業転換、さらに製造はもとより顧客の設計・試作まで受託するODM事業形態へと進化。

尿素センサーはトラック、小型乗用ディーゼル車のみならず、建機・農機でも採用が予定されている。マーケティングでは、自社の企業規模を考慮し、Tier3として尿素センサーをTier2のモジュール、タンク会社に供給することになっている。

会社所在地	〒728-0017 広島県三次市南畑敷町870番地38		
T E L	0824-63-5331	U R L	http://www.sun-awks.co.jp
会社設立	昭和44年	従業員数	587名(平成22年8月31日現在)
資本金	40百万円	売上高	7,740百万円(平成22年8月期)

SUN-A は世界最小/最軽量のセンサー新商品を発売します

尿素SCR用OBD対応センサー

『超小型尿素センサー』

- CPU内蔵なのに、軽量(30g)・小型(50mm)です
- 高精度な濃度・温度が測定できます
- 液の種類も判定します



SUN-Aはこのたび、第3世代の尿素センサーを発売しました。7年間の市場実績とお客様の声を反映し、高機能でコンパクト/安価な製造技術を開発し、国内外のトラック・建設機械のお客様にサンプル配布を開始しました。

SUN-Aのセンサー事業

■ ニッチな市場で“First in the Market”を目指しています。

SUN-Aが参入するセンサーの市場規模は、一つ一つはそれほど大きくありません。そのかわり専門メーカーとして顧客の声をいち早く頂くことができるため、顧客のご協力も得ながら開発できいち早く市場参入を行うことも可能です。

“Niche & First in the Market”がグローバルに生き残っていく道と考えています。



(写真) 世界で初めて尿素センサー(当社製)を搭載したトラック(UDトラックス:「Quon」)

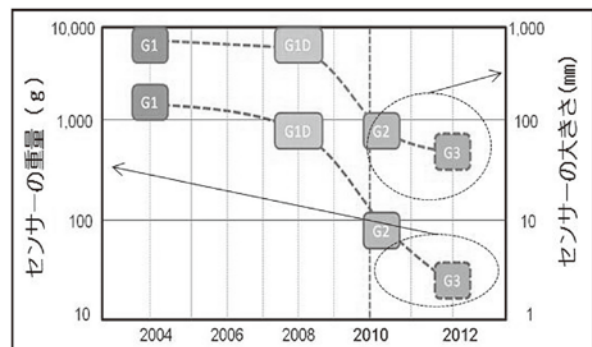
■ “パートナーシップ”により、自社は専門技術を深掘り。

センサーといえども、要素技術の裾野は広く自社の資源でそのすべてをカバーすることはできないと思います。

SUN-Aは国内外6社とパートナーシップを築き、自身は得意技術分野を中心に深掘りすることで商品の差別化を図っています。

■ “三次発世界へ”が合い言葉。

当社センサーはいずれも環境改善を目的とする商品です。日本はもちろん、世界でお役に立つことが目標です。



(図) 特徴ある技術を持つ会社のご協力を頂きながら、ほぼ3年に一つ“イノベーション”を目指しています。図はセンサーのダウンサイジングの進捗を示しています。

本件のお問い合わせ先：SUN-A第3事業部(事業部長 山岸喜代志)